

文学館だより

令和5年3月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高

牧水短歌を作品にしてこられた書家榎倉香邨先生が逝去されて1年。先生を偲び、今年度2回目となる『榎倉香邨遺作展』が始まります。更に山桜が見頃となるこの時期に併せ、牧水と先生を偲び、鼎談を開催いたします。



企画展『榎倉香邨遺作展』 3月5日(日)～4月30日(日)

鼎談『牧水と書家榎倉香邨を偲ぶ』 ※事前申込が必要

日時 3月21日(火) 13:30～15:30

会場 牧水公園 ふるさとの家ホール

概要 13:00 受付(ふるさとの家ロビー)

13:30 開会

鼎談『牧水と書家榎倉香邨を偲ぶ』

書道香櫻会理事長 岩永栖邨氏

若山牧水記念文学館館長 伊藤一彦氏

日向若山牧水顕彰会会長 那須文美氏

15:30 閉会

第27回 若山牧水賞受賞歌人 奥田亡羊さん来県 文学館、牧水生家を訪問されました

2月21日(火) 第27回若山牧水賞授賞式、受賞祝賀会

22日(水) 宮崎県立富島高等学校訪問

受賞記念講演会 演題／「牧水のイデア」

会場／カルチャープラザのべおか

富島高校訪問を終えた奥田亡羊さんは、その足で東郷へ入られ、若山牧水記念文学館・牧水生家を訪問されました。

若山牧水記念文学館での亡羊氏…



恒例となった受賞歌集と色紙へのサインからスタートしました。愛用の万年筆を滑らかに走らせる亡羊氏。とにかく字がお上手なことに驚きました。

サインを済ませ、ご自身の作品が展示されている企画展示室へ移動。書いたばかりのサインの前で記念撮影。歴代受賞者の中から第2回受賞者(現選考委員)佐佐木幸綱氏の受賞歌集『旅人』を手に取り、自分が歌人となるきっかけとなった歌集です、と話してくださいました。

そして、牧水の展示室へ。推敲跡が残る牧水直筆原稿に見入る後ろ姿、一つ一つを心に留めるかのような姿が印象的でした。

牧水生家での亡羊氏…

こちらも恒例、受賞者が生家2階から尾鈴を仰ぐ写真撮影からスタート。眼前に広がる山、川にすっかり魅了されたご様子でした。尾鈴山を確認される亡羊氏。この家に住んでいた姉シズのことを尋ねられる亡羊氏。

母が牧水を背負って参ったとされる「歯神様」のことを尋ねられる亡羊氏。

「牧水の中にふるさとがある。」「牧水の中に母がある。」と優しくも力強く言い放たれた言葉を聞いて、思わず深くうなずいてしまいました。



今年も、歌人を牧水のふるさとにお迎えでき、この上ない幸せを感じています。

久永草太さん「彼岸へ」 第34回歌壇賞受賞

歌壇賞とは、本阿弥書店の発行する月刊短歌総合誌「歌壇」が毎年公募する未発表三十首の中から選ばれる、プロの専門歌人を発掘する登竜門として設けられている賞をいいます。

宮崎市在住の久永草太さんが今回、第34回歌壇賞を受賞されました。

久永さん、おめでとうございます。「牧水・短歌甲子園」出場が短歌を始めるきっかけになったという久永さん。決勝戦で負けたことが悔しくて悔しくて誰よりも長く短歌を続けてやろうと思ったと言います。久永さんは、現在、宮崎大学農学部獣医学科の6年生。卒業を控えたこの時期に獣医学科で学んだことを詠み、受賞されました。受賞作「彼岸へ」三十首は、本阿弥書店発行「歌壇」2月号に掲載されています。



授賞式で
スピーチする
久永草太さん

久永草太さん

- ・牧水・短歌甲子園OBOG会「みなど」所属
- ・文学館開催「みなど展」への作品提供
- ・「牧水・短歌甲子園」ではフィールドアナウンサーを務める。
- ・青の國若山牧水短歌大会小中高校生の部では一次審査を務める。

等々、文学館とも関わりの深い久永さんです。

マッチング短歌 交流会 文学館にて開催

ヒュー！日向 マッチング短歌 交流会

インターネット上で応募された短歌に返歌をした中からマッチング短歌が選ばれ、その作者同士が対面する。

開催日 2月11日（土）
会 場 若山牧水記念文学館
参加者 キャンペーン受賞者9名（オンライン4名）
歌人 天野 慶様 枝野 浩一様（オンライン参加）
主 催 日向市



①日向市内観光後、文学館到着。

この時点ではまだ、誰とマッチングしているか知らされていない。

②開会行事後、会場後方へ移動。

③短歌とその短歌に対する返歌が提示され、それぞれの作者が前方へ移動。

ここで初めてマッチングの相手を知ることとなる。オンライン参加も見られた。



④歌の思いをそれぞれが伝える。

⑤選者講評（歌人が交互に講評）

⑥そろって写真撮影。初めて二人並んで着席。

⑦2組目以降、同様に進行。

⑧閉会行事

⑨歌人 天野さんが5・7・5・7・7の手作りカードを準備されており、トランプの要領で1枚拾っては1枚捨てて短歌を完成させるゲームを体験。牧水バージョンもあり、とても盛り上がっていた。

詳細はヒュー！日向 ヒュー！短歌ホームページ <https://www.phew-hyuga.jp/tanka/matching/> をご覧ください。

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

瀬の渦にひとつ棲むなり鮎の魚ふたつはすますそのひとつ瀬に

昭和2年作。「鮎つりの思ひ出」と詞書があり、25首が並んでいる。

上つ瀬と下つ瀬に居りてをりをりに呼び交しつつ父と釣りにき
釣り暮し帰れば母に叱られき叱れる母に渡しき鮎を

もこの中にある。

前述奥田亡羊氏が一番好きな歌として、若山牧水賞受賞記念講演会の結びに紹介された。